



高原の自然館ニュースレター

苅尾電波塔

第 79 号

2010.8.1

高原の自然館

苅尾（かりお）とは、広島県北広島町芸北にある山の名前です。
一般には臥龍山として知られていますが、地元の人たちは親しみをこめて「かりお」の名前をつけています。

も く じ

お知らせ

- ー “伝えたい いのちの輝き” パンフレットのご案内
- ー 活動報告について

活動報告

- ー ブッポウソウの観察会
- ー 霧ヶ谷の観察会 夏のいきもの観察会

観察会案内

- ー カワシンジュガイの観察会
- ー 可愛川の水生生物観察会

お し ら せ

● “伝えたい いのちの輝き” パンフレットのご案内

北広島町では、2010年3月に「北広島町生物多様性の保全に関する条例」が制定されました。その条例をより活かし、実践するため「生物多様性きたひろ戦略」の策定をめざしています。今回、条例や戦略について、わかりやすく解説したパンフレットを制作しました。みんなでつくる生物多様性戦略をご理解いただき、今後とも西中国山地自然史研究会の活動にご協力をお願いします。なお、会員の方にはパンフレットを送付いたします。

● 活動報告について

7月25日に行われた「こども観察会～植物標本をつくろう～」の活動報告は、都合により次号にて報告させていただきます。

観 察 会 報 告

●ブッポウソウの観察会開催

日時:2010年7月3日(土)9:30

講師:上野吉雄・暮町昌保

梅雨の真っ只中で天候も悪く、参加者があるのだろうかと思いつきながら、受付を開始しました。13名の参加があり、またブッポウソウの飛翔も観察でき、ますますの観察会でした。

今年3月6日に研究会で暮町先生の指導により、ブッポウソウ用の巣箱を10個製作し、4月3日に芸北地区の電柱に巣箱を架けました。しかし、今年の入巣がなく、今回の観察会は数年前に架けられた別の場所の巣箱に営巣しているブッポウソウを観察することにしました。

霧(もや)が出て視界が悪いという天候が幸いしたのか、巣箱周辺を飛翔するブッポウソウ(♂)を観察することができましたが、逆に構造色である濃青緑色や白い斑紋・朱色の嘴(くちばし)は今一歩でした。

観察を終え、文化ホールでブッポウソウの生態や食性について説明がありました。まず、巣箱をかけるようになった経緯を上野先生が説明されました。それによると、以前は電柱が木製であったが、コンクリート柱に取り替えられるにしたがって営巣が少なくなり、それらを補完するために中国電力やNTTなどの支援により、巣箱の設置が推奨されたということです。ブッポウソウは東南アジアから「夏鳥」として日本に渡る希少種で、環境省の絶滅危惧2類、広島県の絶滅危惧1類に選定されており、県内では約150ペアと推測され、個体数の少ない種であるが、中部以北では県当たり数ペアと少なく、中国地方は比較的観察しやすいという説明がありました。ヒトに依存した繁殖場所が、ヒトによって改変され、保護すべき野鳥であることの説明でした。

県内では、三次市吉舎地区や作木地区でもその取り組みがあることが紹介され、また温井ダム周辺での巣箱架けの説明もありました。温井ダム周辺では、警報灯に巣箱が取り付けられ、繁殖期の生態や雛の成長の様子が図版を使って説明されました。ブッポウソウは巣材を運ばない野鳥なので、巣箱の底には大鋸屑を敷き、卵が転がらないようにされたそうです。餌はコガネムシ類が主なもので、薄明薄暮の時間帯に活

発になり、約30秒~1分の間隔で、雛に餌を運んだ観察例を紹介されました。また、胃内容物から、プラスチック・貝殻・プルトップなどが確認され、それらが餌としての役割についても説明されました。主食がコガネムシ類であることから、比較的標高の低い地域に営巣し、コガネムシが活動する日没後に活動する夜行性であることも納得できました。昼間はトンボ類やセミ類を捕食し、夜間にコガネムシ類を捕食するそうです。

また、暮町先生からはブッポウソウの鳴声について説明がありました。特に「声のブッポウソウ」と呼ばれるコノハズクと間違われていることの説明でした。また巣箱の入り口が80mmであること、ヤマガラやシジュウガラは27mm、スズメは30mmであることなどの生態的説明があり、古木が不足している現状では「巣箱架け」は必要な行為であることが説明されました。最後に、今回の観察会により営巣場所がわかり、日を改めて観察することにより、子育てや雛の巣立ちが観察できることを知り、野鳥保護にも興味・関心が高まりました。(ないとうじゅんいち)



フィールドスコープを使って、観察開始。



文化ホールにもどり、上野先生、暮町先生から、資料を見ての説明があった。



約 50 メートルまで接近できた。

【みなさんの印象に残った物】

「講義内容が面白かった」「ブッポウソウが見れた (3)」「ブッポウソウの生の姿」「ブッポウソウのくちばしが赤かったこと」「ブッポウソウのくちばしの色」

【参加したみなさんの感想 (抜粋)】

「雨が降って残念でした」「双眼鏡の使い方がわかってラッキー」「楽しい」「とても勉強になりました。資料を使った先生方のご説明もわかりやすく面白かったです。」「雨が降っていましたが、ブッポウソウが観察できてよかったです。」



雨が降る中、ブッポウソウの濃紺色は確認できなかったが、思ったより近くで見ることができ嬉しい！

観 察 会 報 告

●霧ヶ谷湿原 夏のいきもの観察会

開催日時 :2010年7月11日(日)9:30

講師 : 岩見潤治・和田秀次

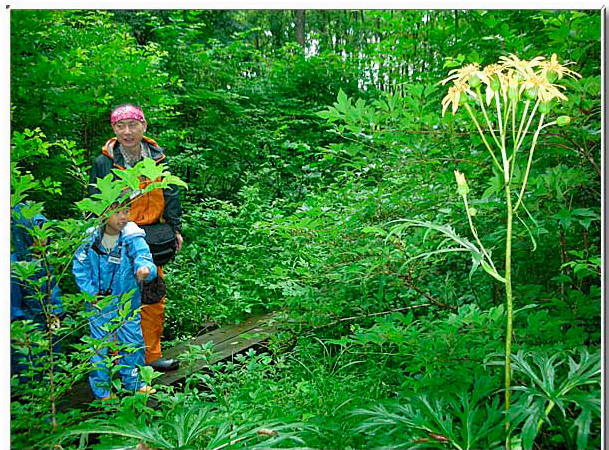
前日からの雨があがらず、降ったり止んだりの中で、霧ヶ谷湿原のいきもの観察会が行われました。参加者は12名です。今回の講師は、植物担当の和田先生と昆虫担当の岩見先生です。自然館を出発し、水口谷湿原を通り、霧ヶ谷湿原へ向いました。カラコギカエデがたくさん実をつけており、和田先生からカラコギカエデの実について教えていただきました。手にとって飛ばしてみると、実にはプロペラ状の翼があるので、風につれてくるくと舞うようにして落ちました。これが種が遠くまで飛ばされる秘密のようです。木道ではハンカイソウやチダケサシ、トモエソウ、ホソバヨツバムグラ、コバギボウシ、オカトラノオ、ヒヨドリバナ、オトギリソウなど、花を咲かせた植物をたくさん見ることができました。また、雨の中でも飛んでいたルリシジミやアサヒナカワトンボの姿も見ることができました。水辺では、トビケラの幼虫やヤゴを観察しました。トビケラは種類によって巣の素材が異なり、小石で作ったもの、枯れ葉でつくったものいろいろな観察できました。水中で移動している姿を見つけ、びっくりしました。他にもしっぽが3つのモンカゲロウの幼虫や、「ちよろ」と呼ばれるヒラタカゲロウの仲間の幼虫、ススキの葉を巻き巣にしているカバキコマチグモ、ハートマーク模様のエサキモンキツノカメムシなど、様々ないきもの姿を見て、名前やどんなくらしをしているのかをじっくり教えていただきました。霧ヶ谷湿原の木道を歩いていると、モリアオガエルもいました。イカルやホオジロの鳴き声も聞こえます。数時間歩いてみただけでも、湿地性の植物や動物を確認することができ、霧ヶ谷湿原が工事によって湿原化し、もとの湿原の姿を取り戻しているんだなあ実感してもうれしかったです。生物の多様性が問われる現在ですが、私たちの身近にある自然から学ぶことは多く、こういった場所を大切にすることが重要なんだと再確認しました。得るものが多く、とっても楽しい観察会でした。(このやよい)



カラコギカエデの実をとばしてみよう！



「ヘビのしっぽはどこからか」の説明をする内藤先生。ウロコの数ヒントのよう。



湿原の中でひときわ目を惹くハンカイソウ。



岩見先生が図鑑を見せて説明.



霧ヶ谷湿原の生き物を紹介している看板. 今日はいくつ見られたかな?



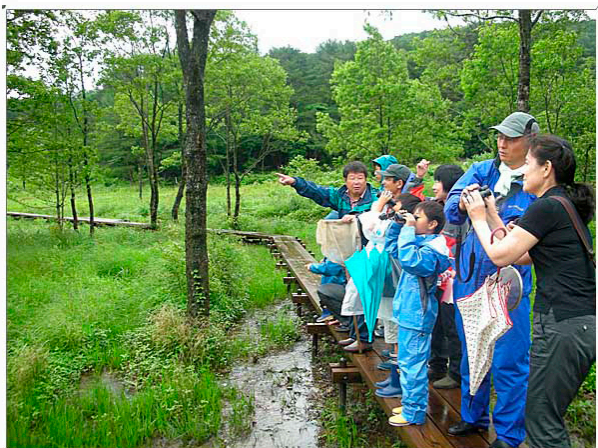
水の中のいきものには子ども達も興味津々. 今度は何がいた?

【みなさんの印象に残った物】

「アサヒナカワトンボ」「色々なカゲロウ幼虫とオトシブミの巣」「カバキコマチグモの強そうな顔でした」「ムカシトンボがヤゴで水中に7年も生活していると聞いておどろいた.」「ヤゴが見れたこと」「トビケラ」「コマチグモを見たこと」

【参加したみなさんの感想(抜粋)】

「用水路でカワトンボの色彩が気になっていました. 種・生態などの説明を聞いたので, 次回の調査では, その気で観察してみます」「雨がひどくなくてよかった」「実物を手にとって見れてよかった」「先生方がたくさんいらして雨の中でしたが楽しかったです」「毒グモ, カバキコマチグモが小さい時から遊びで身近にいたこと」「とてもよかった」「雨でしたが思いのほか, いろいろな生き物が見られて面白かったです」「雨が降って大変だったけどいろいろ見れて良かったです」



木道のそばの木にモリアオガエルがいた. 双眼鏡で見ると, 目のまわりの金色が確認できた,

観 察 会 案 内

観察会に参加される時には、次のようなものを持参してください。カメラ、双眼鏡、ルーペ、図鑑などもあれば、楽しいと思います。

基本セット：山を歩ける服装、雨具、飲み物、おやつ、筆記用具、メモ帳

作業セット：作業ができる服装、長靴、軍手、雨合羽、飲み物、おやつ

● カワシンジュガイの観察会

開催日時：2010年8月1日(日) 9:30

集合場所：芸北文化ホール

講師：内藤順一

準備：基本セット、水中メガネ、箱メガネ、網

定員数：30名

参加費：一般 =300円 / 賛助会員 =100円

正会員・中学生以下 = 無料

毎年恒例のカワシンジュガイの観察会です。最初に講師よりスライドをみながら、カワシンジュガイの生態についての講義があります。その後、現地へ行き、実際にカワシンジュガイの生息している環境を体験しながら、観察をします。川に入ることのできる服装でお越しください。



● 可愛川の水生生物観察会

開催日時：2010年8月8日(日) 13:30

集合場所：千代田中央公民館

講師：内藤順一

準備：基本セット、水中メガネ、箱メガネ、網

定員数：30名

参加費：一般 =300円 / 賛助会員 =100円

正会員・中学生以下 = 無料

千代田地区の可愛川で、川の中にすむいきもの観察会をします。オオサンショウウオをはじめ、魚や貝を実際に観察しながら、先生より名前や生態の説明を聞くことができます。最初にスライドをみながらの講義があります。川の中に入ることのできる服装でお越しください。



“伝えたいいのちの輝き”のパンフレットの表紙を飾っている井居文雄氏の版画を見て、とても感動しました。私たちが毎日目にしている当たり前の風景が、かけがえのない宝物だということ実感します。田んぼがあって、イネが植えられ、赤い屋根の家があるという何気ない暮らしの中に文化は息づいています。後世に残すべきものは、人・文化・いのちなのだと感じ、2005年に開催された芸北 草地シンポジウムのテーマをかみしめている今日この頃です。

記事に関するお問い合わせ、観察会のお申し込み先
(ご意見・ご感想もお待ちしています)

高原の自然館 (こうげんのしぜんかん)

〒731-2551 広島県山県郡北広島町東八幡原 119-1

tel. & fax : 0826-36-2008

<http://shizenkan.info/>

staff@shizenkan.info